



アラスカ大学での講義受講が始まりました



講義の間の休憩時間のひとコマ



Sparrow 先生の GPS の実習



課題研究の英語による口頭発表

3月2日(月)朝、諏訪市を出発した2年SSHコース海外研修旅行隊一行35名は25時間半の移動の末、無事目的地アメリカ合衆国アラスカ州フェアバンクスに着きました。早速、現地時間2日(月)の夜からオーロラ観測及び極地課題探究に取組みました。幸い天候に恵まれ夜半には北方地平線上に念願のオーロラが観測されました。当日はオーロラの規模としては10段階の3で、たいへん穏やかな状態でした。

3日(火)の午後からはアラスカ大学での講義実習が始まり、Dr.Ned Rozell らによる「北極圏の自然」、「北極海の氷」、「永久凍土」「アラスカの火山」等についての英語による講義を受講しました。

また、Dr.Elena Sparrow による「科学実験における実験器具の校正の重要性(仮題)」という実習も受講しました。

いずれの講義についても学校で講師の先生方の研究分野の学習や研究論文の輪読をしたりして、テクニカルタームや研究の内容を事前学習して臨みました。先生方も日本人の高校生が聴講していることを前提として大変丁寧に講義していただき、生徒は、予想以上に理解でき、研究分野にも興味関心を持つことができたとのことです。

また、一人ひとりが積極的に講義内容に質問を出し、先生方も丁寧に答えて下さったそうです。コーディネイトして下さった赤祖父先生からも生徒の積極的姿勢を褒めていただいたようです。

4日(水)には生徒が1年間取組んできた課題探究の成果を英語でアラスカ大学国際北極圏研究センター教職員に向け発表しました。高城、高見澤の二名は、「The possibility of the water release embankment」(圧力分散型堤防の可能性)を発表しました。2月7日の課題探究発表会の後、原稿と口頭発表用スライドをすべて自分たちで英訳し、理科、英語の先生の助言を得ながら準備を進めて当日を迎えました。現地の先生方からは、英語のプレゼンテーション技術について助言を頂いた他、発表内容についても温かいアドバイスを頂くことができました。発表した諸君はたいへん充実した時間を過ごすことができたようです。

アラスカと諏訪清陵を結んでインターネットミーティングを実施



3月5日(木)14時(現地時間4日20時)本校物理室に1年SSHコース予定生徒が集まり、インターネットで現地と結び、アラスカの2年生と交流しました。

1年生からは、アラスカの気象、オーロラを初めて見たときの感想、アラスカ大学での研究発表の様子や、旅行中の飛行機の乗り心地

やアラスカの物価などの質問が出て、2年生から「それほど寒くない」「興奮したけど、1日だけしか見れず残念」「研究発表は先生方からその発表態度や内容をほめられた」「物価は日本並みだが、包装が大きい」など丁寧に答えていました。2年生からは「講義がたいへん興味深い」「事前学習が役立った」「科学英語入門の授業、テクニカルタームの学習が役立った」「平素の英語の授業を大切に！」など後輩への助言がありました。

2年生はその後オーロラ観測に出かけ、明日、大学での講義3日目を受講後、深夜、帰国の途につきます。